

山口県労協機関紙 連合山口・労働金庫・こくみん共済coop山口推進本部・県生協連・13地区労福協

# やまぐち労福協

vol.177  
2020.3月号

一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

〒753-0078 山口市緑町3番29号 TEL(083)925-7332 FAX(083)921-1650  
Eメール roufuku@orange.ocn.ne.jp 発行人:古都 昇・編集人:藤山 毅

## “県民の暮らしの安心・安全と福祉向上”に向けて!

～ 令和2年度県要請に対する回答交渉 ～

2月21日（金）、昨年11月に提出した「令和2年度勤労者福祉の充実・強化に向けた要請書」に対する回答と意見交換会を行いました。



はじめに、中繁会長より「少子高齢化・人口減少が加速していく中、県民の雇用と暮らしをどう守るかが大きな課題であり、共助・公助の機能強化と役割発揮がより一層求められている。“連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現”に向け、勤労者福祉の向上を図るために取り組みを積極的に推進している」と述べ、弘中副知事からは「県労福協からの勤労者福祉の充実・強化の要請は、いずれも極めて重要な課題であり、厳しい財政状況の中、来年度の予算編成に取り組んだ。県も県労福協と連携し、労働者福祉の向上に向けて努めたい」と挨拶がありました。

各担当課から要請に対する回答の後の意見交換会では、若い女性の転出超過に対する取

り組みや生活困窮者の居住支援に対する取り組みについての質問と、外国人労働者の受け入れ本格化に伴い、地域住民と共生しあえるための環境整備を要請しました。

最後に、福田商工労働部長より「勤労者福祉の充実・強化に向けた提言は、各部署でもしっかりと受け止め取り組みたい」と締めくくりました。

### 【令和2年度対県要請事項】

1. 制度・施策の改善と充実
  - (1) 勤労者に対する総合福祉諸施策の取り組み
    - ・企業の女性活躍の促進
    - ・「給付型奨学金制度」補助制度の拡充や相談窓口の整備
    - ・障がい者の法定雇用率向上に向けた取り組み強化
  - (2) 格差・貧困社会の改善への取り組み
    - ・フードバンクへの活動支援
    - ・山口県居住支援協議会の実質的な仕組みづくり
  - (3) 県民が生き生きと暮らせる社会環境づくり
    - ・子ども虐待の予防的な取り組み強化
    - ・増加する外国人労働者への対応について
  - (4) 安心・安全な生活環境の整備促進
    - ・防災・緊急時の避難対策について
  - (5) 地方消費者施策の充実
    - ・生活協同組合事業の活動支援について
2. 労働者福祉事業の育成強化
  - ・労福協事業に対する援助について

# ◇西部労福協「第50回定期総会」報告◇

2月20日（木）香川県高松市で「第50回西部労福協定期総会」が開催されました。西部労福協を代表して成相会長より「西部労福協は各県労福協や中央労福協と連携を強化し、それぞれの運動に活かすため情報交換を行い、交流事業・研究集会などで相互研鑽のための諸活動に取り組んできた」と挨拶がありました。

議事では、2019年度活動報告、会計決算・監査報告、2020年度活動方針（案）・予算（案）、役員改選が提案され、全ての議案が満場一致で承認されました。2020～2021年度の幹事県は香川県労福協となり、香川県労福協の森信夫会長が西部労福協会長に選出されました。

総会終了後、「国際労働財団（JILAF）設立30周年記念スタディツアー（タイ・ネパー

ル）」に参加した岡山県労福協会長の金澤稔氏より貧困の連鎖の実態について参加報告がありました。



— 西部労福協 成相前会長 —

また、定期総会50回を記念したレセプションも開催され、アトラクションで“うどん県香川県”として讃岐うどんの生地作り実演が行われ楽しみました。

## 地区労福協だより

# 萩・阿武地区労福協

昨年12月14日（土）、萩・阿武地区労福協主催「第20回バリアフリー！みんなで楽しくあそびましょう！」を、萩市の旭マルチメディアセンターで開催しました。当日は子どもや高齢者・障がい者のみなさん約40名が来場しました。

体験ブースでは、ガールスカウトの指導により「良く飛ぶ紙飛行機」作りに挑戦。参加者は思い思いのイラストを機体に描き、会場内を所狭しと飛ばしました。マジシャンによるマジックショーでは、



次々に繰り出す不思議なマジックに観客から大きな拍手と歓声が上がっていました。昼食には、寿司職人が作った本格ちらし寿司とお吸い物が振舞われ、舌鼓を打ちながら満喫しました。その他、クリスマス会としてビンゴ・じゃんけん大会・プレゼント交換が行われ、

最後にサンタクロースが会場に現れると、子どもたちは大興奮、大いに盛り上がりました。テーマのとおり、障壁（バリア）なく、参加者やスタッフ全員がともに楽しく過ごせた1日でした。

## 地区労福協「労働福祉セミナー報告」

## 下松地区労福協

1月20日（月）にスターピアくだまつで2019年度労働セミナーを開催しました。

今年度の講師には、気象予報士で防災士の國本未華さんを招き、「近年の気象災害について～どう備えるか～」をテーマに講演いただきました。

講演では、最近の気象状況や平成30年7月豪雨災害・今年の台風被害などについて様々なデータを基にした具体的な解説や下松市の降水量やハザードマップといった身近な情報もあり、参加者は熱心に聞き入っていました。

テーマが身近な問題であることから、多く

の関心を集め、当日は184名が参加しました。日頃から、職場の仲間や家族といざという時に身の安全をどう守るかなど話し合ったりと防災意識を高める実用的な講演となりました。



## 山口地区労福協

2月21日（金）に労福協会館にて「山口市民労働者福祉セミナー」を開催しました。労働者の福祉向上に寄与するため毎年開催しているセミナーで、今年度は山口県立大学の今村主税准教授に「フードバンク」について講演いただきました。



今村准教授は、自らが代表となり山口市でNPO法人フードバンク山口を立ち上げ、“すべての人が食に困らない持続可能な社会”を目指して、食品ロスの削減やフードドライブ・食のセーフティーネット構築のため日々活動されています。

フードバンク山口では、誰もが気軽に食品

を持ち込めるように県内34ヶ所にフードバンクポストを設置したり、家庭・企業からの食品の受付・保管・配布、県内に66ヶ所の子ども食堂への提供等をボランティアで運営しています。提供先の子ども食堂は、ターゲットを限定せず、誰もが気兼ねなく食事ができる地域食堂として、多世代に利用してもらうことで地域のつながりの場としても活用されています。「“もったいない”を“ありがとう”に変えるフードバンクは、食品・時間・活動資金の寄付といった誰もができる身近なボランティアとして理解を深めてほしいと話されました。

当日は、約100名の聴講者が集まり、みなさん熱心に聞き入っていました。

『フードバンクポスト』は、県庁ロビーやスーパーなど県内34ヶ所に設置されています。





# 「2019年度障がい者運転免許取得特別支援講座」報告

～ 2019年度は過去最多の58名が受講 ～



山口県労福協では、障がい者の職業能力開発による自立支援策として、自動車学校へ入校するための法令・消費者講座・学習講座を行い、自動車免許の取得を支援するため、2006年度より「障がい者運転免許取得特別支援講座」を実施しています。

この講座は、社会貢献活動の一環として取り組んでおり、今年で14年目となりました。各講座は、県内5か所の総合支援学校（田布施・

山口・山口南・宇部・下関）で開催し、各自動車学校（柳井・湯田・小郡・西日本・早鞆）の教官が学科等の授業を担当しています。

今年度の受講生は過去最多の58名でした。各講座の最終日には教官から一人一人に修了証が授与され、受講生は免許取得に向けて気持ちを新たにしていました。今年度で累計受講者数は344名となりました。今後も支援を継続していきます。

# 「高校生のための消費者講座2019」報告

～ 県内13校で14講座を開催～

毎年、中国労働金庫の協力により開催しているこの講座は今年度で14年目となりました。例年受講対象は3年生でしたが、今年度は、2022年4月から成人年齢が18歳に引き下げられることを受けて、1年生を対象とした講座も初めて開催しました。

講座では、中国労金職員が講師となり、悪質商法の形態と対処法の実例紹介やクレジットカードなどの金融知識を分かりやすく解説。また、結婚やマイホーム取得等にかかる費用のための貯蓄、上手なローンの利用法についても説明しています。

受講後アンケートでは約9割が「分かりやすい」と回答しており、社会人となるための

知識として活かしてほしいと願います。本講座は2006年度に開講し、14年間累計で延べ157校、15,131名が受講しています。県内高校の半数以上が実施しており、今後も若い世代の金融リテラシー向上のため、中国労働金庫と連携して取り組んでいきます。

